

平成24年第1回定例会（3月）一般質問

(1) 地域防災組織の強化について

2. 豪雪対策における地域との連携

○ 議員 宮下裕美子 2.豪雪対策における地域との連携についてお伺いします。

今地域防災組織についてお話ししてきましたが、地域防災組織に対して防災士という知識面で保管する制度を設けたのは一歩前進したことであると思います。ただ知識も必要ですが実践が何よりも重要で行政と町民が協力し合い課題解決することが必要であると考えます。その際、今年の冬の豪雪は記録的で豪雪対策本部も立ち上がり、地域防災組織構築に向けて絶好の機会だったと考えます。しかし午前中の答弁にあったように拡大会議ではなく情報連絡会議の折りに行政区のメンバーが呼ばれていなくて、次の日に区長や町内会長に地域担当者が聞き取りに行ったということでしたが、このように町全体組織の中に行政区つまり地域防災組織を位置づける必要があったのではないかと考えます。そこで質問します。1月末に豪雪対策本部を立ち上げて以降、地域防災組織の枠組みである行政区への情報提供はどのようになっていたのでしょうか。豪雪対策本部全体像については先ほど別の議員のところで答弁をいただいているので、そこは省いていただき、行政区への情報提供についてお伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほどの説明にもありました通り行政区長を中心とすることにつきましては、2月16日の情報連絡会議で区長連絡会議に議長・副議長に出席いただきましたし、区長を対象とする部分については翌日の行政区・町内会長への現状及び要望等の聴衆に歩いたのが実際のところでありますから、極めて今回の対策本部の状況では行政区に対する協力については薄かった。この部分はしっかり反省して行かなければならないし、今回の災害を糧として行かなければならないと考えているところです。一点、情報提供ということについて消防関係は12月から始まり2月26日まで、土・日曜日で14回広報車を出して注意喚起しているところですし、役場関係ではIP電話による啓発ということで、これは保健センターより行政区長に対して高齢者の見守り等のお願いをしているところでもあります。また大雪警報が出たとき、これは札幌气象台から月形地域とする部分については5回発令しています。5回発令はその都度配信しております。事故防止等の注意喚起ということでは19回IP告知による発信をしているところでもあります。今回の結果についてですが、社会福祉協議会が主催する除雪ボランティア登録状況で、この登録者が23名、札比内は全

地区であり、もう一つが新田地区でありました。対象者世帯数が27世帯ということで、極めて自主的に自主防災ということでの考え方が地域によってはしっかり営まれていることについて、大変嬉しく感じたところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 先ほど答弁の最初に行政区に対して協力が薄かったということだったので、町長がそのような認識であるなら次の展開も可能であると思っています。IP電話や土・日の注意喚起について回数や情報が流れましたが、それは基本的には今ある枠組みの行政区に対して情報提供すること。各個人への注意喚起で地域防災組織構築のための新たな取り組みということではなかったと考えます。今回除雪ボランティアで札比内地区と新田地区の活動は非常に有用でありましたが、このことを行政区地域防災関係の取り組みの一つとして各行政区に紹介することもアイデアではないかと考えます。今回の豪雪対処について地域防災組織を立ち上げるための足がかりとする観点からアイデアですが、今回独居老人宅の見守りや除雪等を職員が2度に渡って行いましたが、それを例えば地域防災組織つまり行政区に協力を依頼して各行政区単位で地域実情検証やあるいはそれに対して除雪をするということ、交付金措置しながら依頼することにより地域が自分たちの足元にある高齢者宅や被害の実情を把握し、今回は除雪ですがそれが基礎になって次の助け合い運動や見守り運動につながっていくと考えます。終わってしまったことですが、もしこのような災害があった場合にはある程度のところまで来たところで、行政区に役場が対応しているものをある程度移管しながら、その組織を育てていくかたちでサポートするシステムができないものかと考えていますが、町長の考えをお願いいたします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 まさしく災害が起きたときの一番の戦力は自助の組織であります。そんなことから宮下議員の言われる通りであり、それについて私たちが今回大いに反省しなければならないのは、それが対策本部として対応としてできなかったところでもあります。今回地域の聞き取りの中で多くのお年寄りの人たちに言われたのは、町内会・行政区の人たちに随分助けられているということでもありますので、組織として立ち上がっていないけれど地域コミュニティとしてお互い支え合うという月形町としては地域コミュニティがしっかり出来上がっている町であると感じていますから、今後防災組織を立ち上げていくということでも、極めてスムーズ、協力的に実施できると考えているところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 私も月形町はお互いが助け合える町の風土が残っている町であると感じていますが、組織化というのは非常に難しい問題で今まで2年間補助金を出しながら

サポートしてきましたが、組織化のところまで行かなかった現実もあります。ぜひ一歩進んできちんと組織化することが今後大きな災害が起きた時に地域が組織だってあるいは統制を取りながら町側と協力しながらやるというときに地域差が出ないかたちで対応できるのではないかと思いますので、現状に甘んじることなく一歩進んで組織化のサポートを続けていただきたいと思います。